



竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

「涅槃会に想うこと」

今月（一月）末で自坊の飼い犬が子犬を産んで一ヶ月になりました。授乳している母子犬共々見てみると可愛いものです。昔から自坊では犬猫を代々数十匹飼ってきました。拾ってきたのもいたしここで生まれたのもいました。現在、彼らは境内の隅で静かに眠っています。

人間を含む動物が生まれ死んでいくのは永遠不変の真理です。私達人間はこれらを経験上理解していますが、言葉を持たない動物にこれらの事を伝える事はできません。犬は生きています、自分の死について考えられないだろうしこの世に生を受けた意味も分からないでしょう。危険は本能的に察知するのみです。人の手を離れて野良犬にでもなればただ食べて寝て死を迎えるだけです。しかしこれらの犬達も個々の特性を生かした使命を与えられれば、彼らは使命を持った特別な存在として生きる事ができます。愛玩性を生かしたペット、また訓練を受けた盲導犬、聴導犬などは必要とされる場所で代わることのできない存在として生きています。人間が利用しているだけという指摘もあるうかと思いますが、大事にされ感謝されるのは間違いなく、また一部の人間にとっては生きる支えになったりもします。結果、生まれてきて意味のある存在になる事で、彼ら自身の幸福にも繋がっているのです。

二月十五日は仏教の祖、お釈迦様のご命日です。お釈迦様は人間の存在を深く見つめ考えられました。何故、人間は人間に生まれてきたのか？生まれ、生き、死んでいく人々。そこに意味はあるのか？苦とは何か。実相とは何か。流転し移り変わっていく万物。縁起の道理。それらをお釈迦様は誰に教わることなく自ら觉り、弟子達に説き仏教が生まれました。仏教とは「仏の説かれた教え」の意と共に「自らが仏になる為の教え」の意があります。自らの生活を振り返り、自分の生きていく意味、付与されている使命を自ら考えるきっかけの日にしていただきたいと思えます。

西方寺 川田邦博

ケアハウス入居者受付中！



ケアハウス竜雲は現在満室ですが随時入居者を受け付けております。見学、ご相談等ございましたらお気軽にご連絡下さい。

担当…福田
TEL : 087-888-5800

ボランティア募集！

空いている時間にボランティアをしてみませんか？利用者様とのお話、クラブ活動のお手伝い、お掃除など…皆さんの趣味や特技を活かして下さい。
興味のある方、お電話をお待ちしています。

担当…三宅
TEL:087-888-5800

◆地域交流ホールご利用の案内◆

ケアハウス竜雲内にある地域交流ホールは、会議、会合、クラブ活動、同好会などにご利用できます。



担当…三宅
TEL:087-888-5800

社会福祉法人竜雲学園

竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
ショートステイサービス
ホームヘルプサービス
デイサービス
老人介護支援センター
ケアハウス



共同募金
受配施設

〒761-8078
高松市仏生山町甲 3100 番地 2
TEL:087-888-5800
FAX:087-889-1004

「イベント紹介」



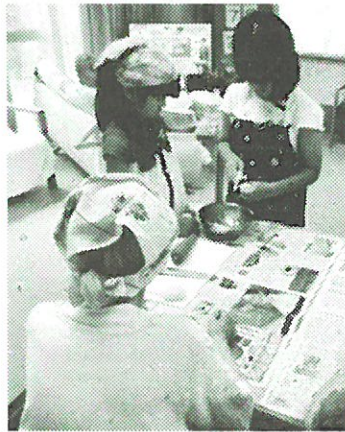
『子どもたちとの交流会』

デイサービス 副主任 田村 博美

皆さんは香川県の世帯状況をご存知でしょうか？平成27年では約3割（26・6%）が高齢者世帯となっており、その半分が高齢者の独り暮らしの世帯となっています。核家族が進み、高齢者と子どもの接点が少なくなってきたことから、異世代の交流の場を作り、交流することで、子どもにも高齢者にも良い効果が得られると注目されています。

認知症型

デイサービスでも、平成24年より子どもとの交流会を長期休みに合わせて年に3回実施しています。



交流会当日は、利用者様がデイルームに到着すると、子どもたちがお茶をしながら、お茶を出ししています。お話をしながら色塗りや折り紙などをした後、一緒に昼食づくりに取りかかります。利用者様は、野菜の皮のむき方から「指は丸めて、猫の手よ。」と包丁の使い方で、やさしく子どもたちに教えてくださいます。子どもたちも、親に教えてもらう時とは違い、言われることを素直に聞いているのがわかります。利用者様のいつ

もの温かなまなざしの中に、この日は子どもたちが怪我をしないようにと注意深く見守ってください。鋭いまなざしも感じられます。そうやってワイワイとみんなで作った昼食を、同じテーブルを囲んで「おいしいね。」といいながら食事をしていると、いつもはなかなか食が進まない利用者様も自然とお箸がすすんでいることに気づきます。このように子どもにも利用者様にも、いつもとは違う変化を感じられることができました。

認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしい生活が送れる社会を目指していく中で、子どもたちが高齢者と交流し、認知症への理解を深めることは大事な取り組みの一つだと思っています。これからもこの交流会を続けていき、利用者様と子どもたちが共に住み良い地域づくりのお手伝いをしていきたいと思えます。

地域活動報告



『てったう団の活動について』

主任生活相談員 三宅 啓太郎

竜雲学園では平成24年に、地域貢献活動を推進する目的で「まちナビ委員会」が発足されました。それ以降、仏生山の夏祭り「門前祭り」への参加協力、竜雲舜虹苑前の道路のボランティア清掃、認知症サポーター養成講座の開講、サロン活動支援等々少しずつですが活動の幅は広がっています。最近では仏生山町の事業委員会「安心の素部会」にも参加し、仏生山町の福祉的な課題について考える機会を頂いております。今回は、その「安心の素部会」が運営しているポ

ランテイア団体「てったう団」の活動を紹介させていただきます。

「てったう団」は、仏生山町在住の70歳以上の高齢者世帯の方の支援を目的としたボランティア団体です。支援内容は「お話し相手」「ゴミだし」「庭の草抜き」で費用は無料です。高松の皆様はご存知の事と思いますが、「てったう団」の「てったう」とは讃岐弁で「手伝う」を意味しています。活動を開始して約半年ですが、数件の草抜きの依頼があり、徐々に認知度が高まってきました。同様の支援を行う有料の事業もありますが、てったう団は「てったう」の言葉通り、依頼された内容をこちらで全て行うのではなく依頼者と一緒に出来ることはして頂く事、「自立支援」に主眼を置いています。

また昨年の11月からは毎月第2土曜日に、仏生山コミュニティセンターにて、仏生山町の方であれば誰でも参加できる「まちかど茶話会」も始めました。こちらは毎月10人前後の方が足を運んで下さり、お茶を飲みながら会話を楽しまれています。

安心の素部会に参加させて頂いて感じることは、地域の結束力の強さです。核家族化、高齢化の為、地域における横の繋がりが希薄になってきている中、このような活動は互助力を育む上でとても大事です。竜雲舜虹苑も地域の一員として、誰もが安心して暮らせる町、仏生山の実現を目指し、今後も安心の素部会の活動に協力していきたいと思えます。

